

文樂 Bunraku News 応援団通信

文樂
応援団通信
第20号
2012. 1. 3.



しちふくじんたから いりふね
『七福神 宝の入船』

文樂応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com/index.html>

文樂応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>



携帯QRコードは
こちら

文樂応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文樂応援団は文樂の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文樂公演のポスター・チラシを配布
 - ②文樂関係の展示品の解説
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文樂の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文樂に関する学習会や懇親会なども行います



新規団員を募集します

文樂の普及のためにあなたも応援団に参加してください

国立文樂劇場の友の会会員であることが必要です

募集要領・申込用紙は国立文樂劇場1階展示室の

文樂応援団連絡デスクにあります。締切は平成24年1月24日(火)です

よしつねせんばんざくら
『義経千本桜』

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10
国立文樂劇場 事業推進課 文樂応援団担当
TEL 06(6212)2531(代) FAX 06(6212)1202

『文楽の将来を紡ぐ』

日本芸術文化振興会

(国立文楽劇場)

理事 水野 英二

うに、徐々に息苦しくなつております。そのような状況の中で、幸いなことにこれまで振興会は、工夫と努力でA評価を頂戴しておりますが、このままでは将来何らかの変革が必要となることでしょう。

平成十三年四月に四十七名で発足し、今年の四月で十二年目を迎える「文楽応援団」の皆様に、これまでの十一年間の皆様のご協力とご支援により、沢山の方に文楽に触れる機会と文楽ファンになるきっかけを作つて頂いたことに対し、心より感謝申し上げたいと思います。

皆さんも既にご存知のとおり「人形浄瑠璃文楽」は、平成十五年にユネスコの無形文化遺産に登録され、今や世界が注目する舞台芸術であります。人類が共有し、保護すべき普遍的な価値を持つ文化遺産の一つという訳です。文楽は、日本全体で保護すべき芸術ですが、まずは文楽が生まれ育つた「大阪」でしつかりと守つていかなければ、絶えて消滅する可能性のある無形文化遺産なのです。

事業仕分けなどでご承知のとおり、われわれ独立行政法人には厳しい風が吹いており、制度上、毎年予算が削減される一方で、評価の目安となる目標数値は高くなるという状況です。まるで真綿で首を絞められるよ

やっぱり文楽はやめられない！

其の十五

『応援団恒例 バスツアーニュース報告』

松田 充子



『壇坂観音靈験記』

文楽という約三百年間続いてきた芸術を後世に伝えていくためにも、文楽技芸員の方々には益々技艺の精進を続けていただき、この「縦糸」に、われわれ独立行政法人日本芸術文化振興会(国立文楽劇場)が「横糸」となつて、しっかりと文楽を紡いでいくことが重要です。

文楽の将来を考える上で、上質な公演をできるだけ沢山のお客様に見ていただくこと、そして、同時に若い世代へ文楽を普及することが最重要課題となっています。「縦糸」と「横糸」をより強いものにして、文楽の将来を紡ぐためにも、文楽応援団の皆様のご協力とご支援が欠かせないものであると考えております。これからも末永く、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年の恒例・秋の文楽ゆかりの地巡りバスツアーは、代表が中心になつてプランを練つた「淀川縁旧跡めぐり」に決定し、大阪秋の陣の同日、期日前投票を皆きつちりと済ませ、いざ二十二名の参加者は劇場前を出発！秀吉によつて整備された淀川縁(文禄堤)は現在の京阪電車沿いに、先ずは菅原道真ゆかりの守口佐太天神宮に到着。菅公が大宰府に遷す途に、領地である地にしばらく滞在の後創建され、自画像・手づから木像を残しているのもこの神社。江戸時代は人の多さで三大天神と言われたそうで、境内には白太夫社も。女性神官の三森さんから菅公への愛溢れる説明をお聞きした。

次は江戸時代に淀川縁の宿駅・川港として栄えた京街道枚方宿の船待ち宿「鍵屋」へ。現在は趣きある建物を生かして古文書・民具など展示している「枚方市立鍵屋資料館」。三十石船のお客さんと食事などを売りつけるくらわんか舟との駆け引きなど、当時の様子を実感。平成九年まで料亭として営業していく、一月二十九日には文楽関係イベントもあります。

枚方宿街道筋を再現した散策コースの続きに淀川の生き物や沿革につ

いて展示している「淀川資料館」。「ひらかたの仙亭」で昼食を満喫し、「双蝶々曲輪日記」ゆかりの橋本では渡し場の遊里の佇まいにちょっとしんみり。



「安居橋にて」



「石清水八幡宮にて」

「淀川縁旧跡めぐり」バスツアー
2011.11.27

最後は応援団活動の手本となつた先輩ボランティアの活躍する「松花堂」を約1時間、庭園や茶室・竹などの細やかな説明を受け、私たちも初春公演の準備を誓い、帰路に着きました。

やっぱり文楽はやめられない！

「石清水八幡宮」では応援団ならびに文楽の益々の発展を祈願し御祓いしていただきました。表鬼門の延暦寺に對し裏鬼門でがつちり京を守るお役目。由緒正しく古典登場回数多いものも納得。八幡駅近くの見過ごしそうな路地には「八幡里引窓の段」の南方十次兵衛住居跡石碑アリ。放生川に架かる安吾橋にて皆で記念撮影後、この辺りから本性(?)を現した一部の団員は「走井餅」やお団子に目がくらみ、三条小鍛冶の相槌稻荷や日本一の五輪塔そつちのけ、食い気に走つたのでした：

最近の活動風景



「竹本義太夫墓碑」
2011.9.24



「大津祭」2011.9.9

劇場周辺見てある記



「大阪七福神巡り」2011.12.10



「奈良県五條市
『艶容女舞衣』
公演」
2011.11.26

展示室内解説風景



LOST CHARACTERS

Sometimes in bunraku plays a brand-new character abruptly drops onto the scene, virtually out of the blue, to do things having no real connection to the rest of the story then depart as suddenly as he came. The havoc he has wrought remains to be sorted out by the heroes; but who he was, where he came from and what motivated the havoc remain mysterious. Such odd interludes frustrate an audience already grappling with a complex plot.

These “lost characters” are remnants of the days when shows were dawn-to-dusk affairs which filled the time with subplots, background plots, branch plots and a host of minor characters to populate them. A few such tangents proved popular enough to develop into spin-off plays. The majority disappeared when show times got shorter to suit modern schedules. But every so often an obscure minor character will still appear, a remnant of past centuries when he had a whole subplot of his own.

The ruffian who tortures the granny in Sanjusan Gendo [Osaka 1/12] may be one such character. His scenes are only rarely performed in bunraku, and never in kabuki. He does not make much sense. He is ridiculous and vicious by turns and in either guise a

puzzle. But in his last moments he declares himself to be a rebel general set on toppling the throne! This is serious business.

Rebel generals have complicated back-stories, with at least a full act to contain them.

Perhaps he had this once, but it has vanished in the mists of time. Bunraku began as vocal literature and has such respect for its texts that it hesitates to cut them, even when other explanatory acts are missing. This occasionally preserves fleeting shadows of a larger tale: a cryptic speech, an unfathomable action, or someone strange who seems to be lost, as if wandering in from another play, a character in search of his story.

Faith Bach
Earphone Guide

Next bunraku productions:
February 4-20(Tokyo)and
April 7-30 (Osaka)



さんじゅうさんげんどうむなぎのゆらい
『卅三間堂棟由来』

文楽応援団 東西どーざい



◆文楽応援団ホームページは随時更新しています。

- ・最新の公演チラシを掲載
- ・文楽劇場公演については、公演演目に関する情報を掲載。
(「ぶち解説」「文楽すばっと」「原作を読もう」等)

◆「文楽くいす」始めました。

- ・「基礎問題」と「演目に関する問題」があります。
文楽応援団ホームページ上にアップしています。
携帯電話の方は、QRコードからどうぞ！



文楽くいす
QRコード

◆「文楽応援団公式ツイッター」始めました。

- ・文楽公演に関すること、応援団の活動あれこれ、
お客様からの質問などなどを呟いています。
@bunrakuouendanで探してみてください。
フォローもよろしくお願いします。

◆初春公演にちなみ「大阪七福神巡り」に行きました。

詳細は公演中、展示室内にて応援団員にお尋ねください。

◆「文楽応援団活動記録写真パネル」は展示室奥
文楽普及コーナーにあります。

◆3月17日(土) “文楽劇場前の2つの文学碑” の清掃予定。

文楽応援団 最近の活動記録 平成23年7月23日～12月

- 7/23 夏休み公演初日。展示解説、演目説明など。8月8日まで。
応援団通信第19号3,000部発行。
YWCAより解説依頼4名。担当:杉本(幾)。
- 7/27 第2回「文楽応援団結成10周年記念勉強会」出席:33名。
- 8/ 1 “大阪あそぼ”より解説の打合せ。世話人:安藤。
- 8/ 4 第3回「応援団ホームページ委員会」出席:4名。
- 8/10 第3回「文楽応援団結成10周年記念勉強会」出席:32名。
- 8/20 スタッ夫会議。出席:7名。
- 8/25 第4回「応援団ホームページ委員会」出席:7名。
- 8/27 第5回研修会。出席:30名。夏休み公演総括。
学習会「私のお気に入り。文楽とオペラ」講師:畠。
- 8/31 第5回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 8/31 第4回「文楽応援団結成10周年記念勉強会」出席:30名。
- 9/14 第5回「文楽応援団結成10周年記念勉強会」出席:29名。
- 9/17 “大阪あそぼ”より解説依頼19名。担当:大野、榎田。
- 9/24 「劇場周辺見てある記」恵美須町～天王寺。参加者:5名。
第5回「応援団ホームページ委員会」出席:3名。
- 9/28 第6回「文楽応援団結成10周年記念勉強会」出席:27名。
- 9/30 第6回「応援団ホームページ委員会」出席:3名。
- 10/ 8 スタッ夫会議。出席:6名。
- 10/12 第7回「応援団ホームページ委員会」出席:8名。
ハンヌ・ヴァイサネン氏、ハンヌ・クリンサアリ氏より解説依頼。
担当:岩田、安藤。
- 10/15 第6回研修会。出席:38名。錦秋公演解説日程調整など。
演目解説、担当:藤田。
学習会「文楽のことば～うつりゆくこそことばなれ～」講師:竹村。
- 10/21 第6回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 10/24 応援団バスター見。世話人:目黒、安藤。
- 10/27 第8回「応援団ホームページ委員会」出席:3名。
「応援団バスター」打合せ。世話人:大野、安藤。
- 10/28 錦秋公演前準備。「文楽応援団活動写真パネル」作成。世話人:荒木、安藤。
- 10/29 锦秋公演初日。展示解説、演目説明など。11月20日まで。
- 11/ 8 「応援団バスター」打合せ。世話人:大野、安藤。
- 11/13 第7回研修会案内発送事務作業。世話人:岩田、安藤。
- 11/17 第2回「応援団通信第20号」編集会議。出席:3名。
- 11/20 立命館大学国際関係学部より解説依頼18名。担当:榎田、杉本、立川、安藤。
- 11/22 高槻老人会より解説依頼29名。担当:荒木、大野、榎田、立川。
「文楽応援団勉強会Part II」打ち合わせ。出席:5名。
- 11/26 スタッ夫会議。出席:7名。
- 11/27 「淀川縁旧跡めぐり」バスター。参加者:22名。
- 11/28 第3回「応援団通信第20号」編集会議。出席:3名。
- 11/30 第9回「応援団ホームページ委員会」出席:5名。
- 12/ 1 第39回ラウンド会議。出席:安藤。
- 12/ 6 第3回「応援団通信第20号」編集会議。出席:3名。
- 12/10 新春公演解説日程調整など。出席:32名。演目解説、担当:藤田。
「折り紙教室」担当:丸山。
「劇場周辺見てある記」大阪七福神めぐり。参加者:8名。
- 12/13 第10回「応援団ホームページ委員会」出席:4名。
- 12/15 第7回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、目黒、安藤。
- 12/24 文楽応援団活動写真パネル作成。世話人:荒木、安藤。

文楽公演

平成24年3月 地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

- 演目【昼の部】「解説」『双蝶々曲輪日記』「八幡里引窓の段」『新版歌祭文』「野崎村の段」
【夜の部】「解説」『団子壳』『摂州合邦辻』「合邦住家の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

2月 25日 (土)	国 立 劇 場	お き な わ	098-871-3311
26日 (日)	国 立 劇 場	お き な わ	098-871-3311
29日 (水)	かごしま県民交流センター (県民ホール)		099-223-4221
3月 1日 (木)	戸畠市民会館 (大ホール)		093-562-2655
2日 (金)	iichiko総合文化センター (iichiko音の泉ホール)		097-533-4004
3日 (土)	アステールプラザ (中ホール)		082-244-8000

3月 4日 (日)	京 都 府 立 文 化 芸 術 会 館	075-222-1046
6日 (火)	倉 敷 市 芸 文 館 ホ ー ル	086-434-0010
8日 (木)	大 田 区 民 プ ラ ザ (大ホール)	03-3750-1611
10日 (土)	アルカイックホール・オクト	06-6487-0810
11日 (日)	姫 路 キ ャ ス パ ホ ー ル	079-284-5806
15日 (木)	堺 市 民 会 館 (大ホール)	072-238-1481
17日 (土)	三 重 県 文 化 会 館 (中ホール)	059-233-1122

文楽応援団通信 第20号 2012年1月3日

編集・発行 文楽応援団 (年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531(代) FAX06-6212-1202